



SG ニュース

発 財団
行 法人 **製品安全協会**

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 1-5-9
共同ビル(本町一丁目)7階
電話 (03) 5255-3631 (代表)

「ゆたんぼ」認定基準等改正に伴う説明会が開催されました

(財)製品安全協会では、去る5月18日及び19日の2日間、東京(当協会)と大阪(東大阪市産業技術支援センター会議室)で「ゆたんぼ」の認定基準等改正に伴う説明会を開催しました。

「ゆたんぼ」の認定基準は、1977年に制定され、その後1979年に改正しています。

今回の改正は、2004年6月から11月までの間に4回の専門部会審議を経て原案が作成され、その後2005年3月開催の第65回安全管理委員会において承認を受け、2005年3月29日付けで改正基準として制定しました。

それに伴い、2005年3月31日付けで検査マニュアルも改正制定されています。

今回の改正は、ゴム製ゆたんぼの材料規程の見直し 低温やけどに関する注意事項の新設 取扱説明書に記載すべき事項の見直しの3つです。

特に今回の改正は、“低温やけど対策”がポイントとなっています。

1995年～2005年4月までに経済産業省事故情報通報制度に通報があった「ゆたんぼ(湯を入れるタイプ)」の事故苦情件数は

14件のうち7件が低温やけどです。

専門部会ではゆたんぼ側(製品側)の本質的設計対策で完全に「低温やけど」を防止することは極めて困難であり、ゆたんぼを安全に使用すること、特に「低温やけど」の発症を最小限にすることは、使用者に対して丁寧できめの細かい注意喚起が重要との観点に立って議論をしてきました。

対策としてゆたんぼの販売方法、流通形態、使用実態、製品の持つ歴史などを踏まえると、使用者に対する注意喚起の方法は、使用上の注意事項を記載したペーパーを製品に添付すること(多くの使用者の目にとまり、かつ、その内容を的確に理解できるもの)が適当であると考えられます。

なお、基準の内容等詳細については当協会業務グループ松田又は大山までお問い合わせ下さい。

知っ得と、安心。～バドミントンラケット～

正しい管理が事故を防ぐ -

生活評論家 佐藤順子

優雅な羽根つきと活動的なテニスを合体させたようなスポーツがバドミントン。追い羽根に似た「シャトルコック」と呼ぶ羽根をシングルまたはダブルスで打ち合います。

世界大会もあり、幅広い世代が参加する大衆スポーツ。優雅なスポーツにみえますが運動量は相当にハードなものです。

バドミントンラケットの事故

以前このバドミントンラケット(以下「ラケット」という。)で事故が起きました。アメリカで日本製ラケットの木製シャフトが使用中に折れ、フレーム側が飛び、損傷部が目にあたり、視力が著しく低下してしまいました。国内でも使用中にグリップからシャフトが抜けたので、シャフト部をグリップに差し込んで放置したところ、他の人がそれと気付かず振ったためグリップからシャフト部が抜けて別の人の首に刺さってしまいました。フレームの脱落とその結果、目にけがをするケースが目立ちます。

こうした事故を受けてSGマークの認定基準が制定されました。

ラケットの構成

ラケットの素材は木、竹、金属、繊維強化プラスチックが使われています。その構造はストリング(フレームに張られた糸)を張ったフレームとラケットを握るグリップ、この二つの部分を接続するシャフトと呼ぶ三つの部分から成り立っています。

ラケットのSG基準

一般に使用される全長が60cm以上のラケットについての基準です。

なお、フレームとストリングが一体成形されたものは乳幼児用玩具なので除外します。

- *ラケットは手、指などを傷付けるおそれのあるばり、まくれ、ささくれなどが無いこと。
- *素地が木や竹製の場合は塗膜の上から見たとき、虫穴、節、割れ、まくれ及びささくれが無いこと。また塗装した金属製については表面に傷があってはなりません。こうしたラケットの

傷等はフレームの丈夫さを左右したりけがにつながりかねないからです。

- *フレームの張り糸は確実に両端が止められ、強く押したとき張り糸の端が緩んだり、解けたりその他の異状があってはなりません。
- *フレーム、シャフトグリップという三つの部分からなるラケットにはシャトルコックを打つとき、たわみや捻りの力がかかります。所定のテストで強度を確認します。

買うとき、使うとき

- *必ず取扱説明書を読み、保管しておきましょう。
- *破損、曲がりなどの変形、傷、ゆるみが生じたものは使わないこと。
- *シャトルコック以外のものを打たないこと。
- *直射日光の当たる場所に放置したり、雨ざらしにしないこと。
- *保管は張り糸を傷めないよう高温多湿や乾燥しすぎる場所は避けること。また車のトランクに入れっぱなしやラケットの上に物を置くなども禁物です。
- *ラケットはデリケートな運動用具です。慎重に扱ってください。

消費者として

- *ラケットは破損しやすいので使用前に点検しましょう。
- *塗装が剥がれたラケットは傷ついている可能性があるので使用しないこと。傷がついたラケットは折れたり、ささくれでけがをすることがあるためです。
- *シャフトは硬く折れやすい素材でもあるので優しく扱うことです。
- *また損傷したラケットを放置しないようにしましょう。
- *子供や初心者は指導者について競技の知識を深め、正しいラケットの扱いかたや、危険な行動をしないための周囲への配慮などを競技のマナーとともに学んでください。
- *SGマークは製品の欠陥が原因の事故について賠償するものです。